

さわかぜ

sanwa chiku-syakyō

発行責任者: 三和地区社会福祉協議会
会長 福田 隆一
編集責任者: 広報部長 川上 保
事務局: 三和保健福祉センター内
(サンハート内)
電話: 0436-37-7100

2022年度 賛助会員募集 事業御礼

本年度、三和地区社会福祉協議会として、7月以降、取組んで参りました賛助会員募集事業の結果につきましてご報告申し上げます

皆様の温かいご理解とご協力の下、個人会員ご協力者様 213口、団体ご協力賛助者様 143口、合せて356口(356,000円/10月20日現在)を集計するに至りました。

ご協力を賜りました皆様に、心より厚く御礼申し上げますと共に、地域に於ける社会福祉活動の更なる充実に向けて役立てて参ります。ご協力、誠にありがとうございました。

〔会員募集事業集計結果(10/20現在/地区別)〕

	個人会員 口数	町会等 団体口数	合計
市西地区	80	36	116
養老地区	60	32	92
海上地区	11	50	61
光風台地区	62	23	85
地区合計	213	141	354
更生保護女性会		2	2
総計	213	143	356

※金額換算は口数×1,000 円/1口



＜11月17日開催された地区社協役員会兼行動計画推進委員会＞

市側が求める 四つのポイント

市社協は、十一地区社協に対して、共通的に計画に織り込んで欲しい内容を、以下四項目を指定しております。

- ①ふれあいを育む場の推進、②寄り添い支えて行く体制の強化、③地域福祉力の向上、④地域で活躍する人材の育成です。

①に繋がる取組みとして、(一)共生型サロン事業(仮称)の推進、(二)子供の居場所づくりの推進

行動計画 推進委員会 検討積上げ

②を推進するにあたっては(一)新たな相談支援体制の構築。更に、③については、地域の社会福祉法人との公益的な連携、④では、福祉教育の推進を掲げております。

進む地区福祉行動計画の見直し 市六次計画との整合を基軸に

三和地区社会福祉協議会では、現行福祉活動計画の見直しを進めています。これは、市原市が取りまとめた第六次福祉活動計画に基づき、市内十一地区社協それぞれが、現行計画と市六次計画との整合を図ることにより、市内全域に於いて歩調を合わせた地域福祉活動を進めることを目的としています。

この行動計画と市六次計画との整合を図るべく、適宜、推進委員会を開催してまいりました。

この新たな三和地区福祉行動計画は、地区内各団体から選出された社協理事の皆さんで構成する総務会での検討を経て、

原案は
総務会・理事会
を経て決定

において、地区行動計画の見直し案をまとめるに至りました。

日常生活支援事業拡充促す 共感呼んだ「たすけあい三和」

市社会福祉協議会は、十一月四日、国分寺台ウエルシア二階にある特設会議場において、日常生活支援事業交流会を開催しました。

会場には、市内十一地区社協ならびに小域ネットワークそれぞれから、生活支援事業に取組む関係者五十七名が参加。

市社協基調報告、地区社協の実践報告、参加者八グループに分かれての同事業に対する情報交換・フリーディスカッションが行われました。



＜参加者57名/8グループでの情報交流＞

市社協基調報告では、現状の生活支援事業取組み状況として、展開中が辰巳台・ちはら台・三和・市津・有秋の五地区、検討中が国分寺台・姉崎地区、検討に着手が南総・市原・加茂地区であることを、この取り組みを進める上での理念が説明されました。



三和地区社協を代表し報告する
たすけあい支援部長 二田口氏

「組織運営上の詳細は？」等、質問も集中しました。二田口氏は、三和としても支援員をどう繋いでいくかは目下の課題であること。広報紙での呼び掛けや、地区内各ネットワークの支援協力を不断の努力として継続して行きたいと語られました。

地域代表の理事全員で構成される理事会での審議の後、正式承認を頂くことが必要となります。

内容の基本は、従来の理念である『みんながつながる、支え合い・助け合う三和をつくる』を踏襲しつつ、地域の輪(和)を更に拡大・発展させ、当三和地区住民が互いに助け合うことのできるあたたかい地域社会づくりを目指す内容です。

【たすけあい三和】男女支援員募集

- ♡ たすけあい三和では支援員の方を募集しています！
- ♡ 実働に応じ規程に定めた手当が支給されます！
- ♡ 男性→依頼に応じ、庭の手入れや草刈りなど
- ♡ 女性→依頼の受付や屋内清掃など
- ♡ 募集受付はサンハートまたは
☎ 070-5452-8333 まで



回顧録



平成二十二年に発足したさんわ担い手組合は、本年度で十二周年。途中、紆余曲折はあったものの、地域の皆様や仲間の協力に支えられながら今日を迎えている。

そんな中、県の農林水産部長が今年初めて来訪した。その目的は担い手育成状況のヒアリングにあった。

地域に支えられて十二周年

農事組合法人
『さんわ担い手組合』
代表理事 鈴木 敏雄

シリーズ 最終

継続的发展へ向けて 食品加工と販路拡大を目指す

行かなければならない。米価は毎年価格変動を繰り返す。一年を通じての米作の確保から、裏作として野菜づくりも並行し、直販にも取り組んでいるものの、一次産品だけでは付加価値は低い。

安定した収益、担い手の給与を確保して行くためには、農産物の加工食品化と流通経路の拡大が目の下の課題かと考え、現在、そのあり方を多面的に研究している。



【11/12・13、農業センターでの収穫祭に担い手組合も出店参加】

【本号で、このシリーズは完了となります。】



〔地上5階建てを誇るケアハウス向日葵(ひまわり)〕

広報紙さわかせでは、地区内に立地する高齢者福祉施設である3つの社会福祉法人を順を追って紹介しています。3回目(最終)となる今回は、二日市場にあるケアハウス向日葵を紹介しします。

令和五年始動 地域ニーズに応える施設計画

社会福祉法人・清明会

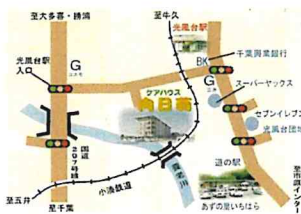


〔対応頂いた山口智史施設長〕

Q 一般的に言われる特別養護老人ホームと、こちらの施設ケアハウスとは、どのような違いがあるのでしょうか？

A 特養と異なる点は、入居条件に違いがあります。日常的な介護を必要とする方が対象となる特養と異なり、ケアハウスの場合は、常時介護を必要

＜施設概要＞	
経営主体	社会福祉法人 清明会
理事長	寺田 憲児
名称	ケアハウス 向日葵(ひまわり) 定員80名
併設施設及び事務所	デイサービスセンター 向日葵 ヘルパーステーション ひまわり 居宅介護支援センター 向日葵 地域包括支援センター ひまわり こくぶんじ台
敷地面積	2,962㎡
延床面積	4,337㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造り 地上5階建て



Q 社会福祉法人として、沿革をお聞かせ下さい。

A 当法人は、平成八年に社会福祉法人「清明会」の設立認可を頂き、八千代市・佐倉市・印西市および市原市の県内五拠点にて高齢者介護サービス

を行なっています。また、当ケアハウス向日葵(ひまわり)は、平成十一年から事業を開始しています。入居者の定員と実員は、どうなっていますか？

Q 全室個室での定員は八十名ですが、実入居者は満室状態ですか？

Q 施設運営上、特に気遣われることはどんなことでしょうか？

Q 入居者の皆様お一人お一人が望む生活を大切にして行きたいと考えています。

伝統を引き継ぐ 新巻祭りばやし保存会



〔手取り足取り指導にも熱がこもります〕

『トコトン・トコトン・トコトン』軽快なリズムが聞こえてきます。ここは、新巻町民会館。新巻祭りばやし保存会の皆さんによるおはよしの音色です。

毎週土曜日、メンバー十五名(大人十名・子供五名)が集い、親から子へ子から孫へと伝統をつなぐ取組みが続いています。